

次の文を読んで後の問に答えなさい。

目的地の袴須はかますに着いた時には、すでに昼の二時を過ぎていた。聞いていた通り、すっかり村は廃すたれていて、たまたま通りかかった家に袴須の住所表示を見つけないければ、危あやうく通り過ぎてしまふところだった。

その頃には私たちの体はすっかり「ひえ切り、足は今にも攣つりそうにビクビクと震えていた。長い間サドルに腰かけていたせいで、肛門こうもんのすぐ下あたりがじんじんと痛んで、まっすぐに立つのも辛かった。

「どこだろうな、いっぺんさんって」

「²たしか、村の西の外れの森の中にあるって、ばあちゃんは言ってたけど」

私たちはゆっくりと村の中を走ったが、どこからどこまでが村で、どちらが西なのかもわからなかった。誰かに聞こうと思ったが、歩いている人の姿はなく、ひどく静かで、ただ吹き渡る風の音だけが響いていた。野良道には草が伸び放題で、山が人間の手から土地を取り返そうとしているようだった。

私たちは、^①ひどく心細い気持ちになった。がんばって来てはみたものの、そこから先、どうすればいいのかわからない。

遠くの道を、一人の老人が歩いていることに気づいたのは、ちょうどそんな時だ。^②私たちは顔を見合わせてうなずくと、その老人の元に急いで自転車を走らせた。

「おう、子供を見るなんて久しぶりだなあ」

老人は私たちを見ると、皺しわだらけの顔を「いっそうくしゃくしゃにして

微笑ほほえんだ。

「何せ、ここにはもう年寄りしかおらんからな」

今から思えば、その老人は奇妙な格好をしていた。^イ遠目には大きなどてらを着ているように見えたのだが、よく見ると薄汚れた掛け布団を、そのままマントのように羽織っていたのだ。その頃にはそんな言葉はなかったが、いわゆるホームレスのようにも見えた。

老人の異様さに黙り込んでいる私をちらりと見て、しーちゃんはいっぺんさんの場所を尋たずねた。

「お前ら、いっぺんさんにお参りに来たのか。遠いところからご苦労だったなあ」

^aいかにも懐かしい言葉を聞いたという風に、老人は何度もうなずいた。

「でも今は、あそこはもうダメだ。^③残念だったなあ」

「え、どうですか」

それまでしーちゃんに会話を任せていた私は、思わず「^④口を挟はさんだ」。

「何でって、ほーれ、ここにはもう、拝む人間がいねえだろうが。拝まれない神様じゃあ、何の力もねえんだよう」

そう言う老人は、何がそんなに嬉うれしいのか、子供のように声を出して笑った。

私には、その老人が不気味なものに感じられて仕方なかった。(中略)

「まあ、でも、せっかく遠いところから、きつい思いをして来たんだ。拝むだけ拜まがんでけばええ。わしについて来いや」

私としーちゃんは^⑤心中怖いものを感じながら、老人の後を自転車を押してついていった。

「お前ら、どう聞いてきたかは知らんけど、ちゃんとお願いのやり方、知つとるんかあ？」

道すがら、老人は何度も振り返りながら言った。私たちと話すのが楽しくてたまらないように、皺くちな笑みをたやさなかった。

「ポンポンと手え打ってお願いします……だけじゃ、あかんだぞ。石を持って行かんとな」

「石？」

「そうだ。まずな、祠ほくらに着いたら、いっぺんさんにお参りするんじやが、そんな時にな、自分の願ねがい事を叶かなえてくださいって。たのむんだ。どんな願ねがい事かは、そんな時は言わんでええ。その後、祠ほくらのそばをな、どこでもええから掘り起こすんだ。いっぺんさんがお前らの願ねがいを聞いてくれるんなら、白くてきれいな石がきつと見つかる。それを家に持って帰って、誰にも見せねえように袋に入れて、ずっと持ってる。そんで毎日、その石が神様だと思って、自分の望みをお願いするんだ。そしたらいつか、必ず叶うから……ただし、いっぺんだけなあ」

その話を聞いて、私は少しがっかりした。いっぺんさんなんて、いかにもな名前なのだから、一度お願いするだけで何でも願ねがいが叶えられるのかと思っていたのだ。案外手間がかかる。

「おじいさん、もし、石が見つからなかったらどうするの？」

⑥ 少し興きんざめな気分になった私とは違って、しーちゃんはむしろ、その手間に真実味を感じたようだった。

「それは、まあ、今はまだ縁ゆかりがなかったちゆうことだなあ」

そう言って老人は、どこか底意地の悪あくそうな目で私を見て笑った。

やがて私たちは、山の斜面に⁴せつした茶色い森の前に来た。

「ほれ、そこに細こい道があるだろうが。そこをまっすぐに行けば、ちっちえ祠ほくらがあつから。ま、道もほとんど消えかけてつから、氣きいつけてなあ」

そう言いながら、老人は森の道を指さした。A 自転車では入れないような、細い小さな道だった。

私たちは老人に礼を言うと、そこに自転車を置いて森の道に入ろうとした。その時、ふと思いついたように、老人がしーちゃんを呼びとめた。

「お前、いっぺん医者に見てもろうた方が、ええぞお」

しーちゃんはぼかんと口を開けて老人を見ていたが、やがて、ハイと答えた。その老人の奇妙さに、B 気づいたような顔をしていた。

私たちは森の中の道を、一列になって歩いた。かなり深い森で、太陽の光があまり届かず、ひどく陰気な感じがした。うかつな方向に進んだら、そのまま遭あ難なんしてしまいそうだった。

「うっちゃん、祠ほくらって、あれじゃないの？」

私がいぶん心細くなり始めた頃、先を歩いていたしーちゃんが言った。彼が指さす方向を見ると、森の中にポツリと、その祠ほくらはあったのだ。た。

その日の夜、私は父親から、顔が曲まがってしまったのではないかと思えるほど殴なぐられた。

家に帰り着いたのが、九時を回まわってしまったからだ。だが、私はあくまでも平手へいで頬ほを張はられたのだから、まだいい。よくじつに会あったしー

ちゃんは、右目のすぐ下が、C 蜂に刺されたように腫れ上がっていた。お父さんに拳で殴られたからだ。

「すごい騒ぎになっちゃったからな」

騒ぎにしたのは、私の親だった。私たちの帰りがあまりに遅いので、釣りに行った川で何かあったのではないかと慌てふためき、学校の先生はもちろん、警察にまで連絡してしまったのだ。私の家の前に帰り着いた時は、とんでもない騒ぎになっていた。私の両親としいちゃんのお母さん、担任の先生がずらりと。ならんで、警官と話をしていた。さらに近所の人たちが加わり、まさしく川の捜索に向かおうとしているところだった。

そこにこのこの帰って来たのだから、無事に済むはずがない。私としいちゃんは、それぞれの親にさんざん引っぱられた。他人を巻き込んでしまった以上、親としては、その人たちの前でそうする以外にはなかったのだ。

私たちはあくまでも、帰りに道に迷ったと言い張ることで、大人たちの追及を逃れた。いっぺんさんに行ったことだけは、ぜったいに話してはならなかった。

けれど、私たちは満足だった。⑧ 自分たちの力で、思いがけないことをやっつけた……という充足感があった。

「ありがとう、本当にうっちゃんのおかげだよ。D 昨日の夜から、お願いを始めたよ。早く大人になって、白バイのお巡りさんになりたいって」

よくじつ、改めて校長先生直々にお目玉をくらった帰り道、しいちゃんは折れた前歯をむき出して笑った。

「でも、ごめんな、俺ばかり」

「いいんだって。もともと、しいちゃんのために行ったんだから」

私たちは祠を見つけた後、奇妙な老人に言われた通りにお参りし、近くの地面を適当に掘り返した。石を人に見られてはいけないというので、念のために背中を向け合って、それぞれが好きな場所を掘った。日当たりの悪い森の土は水気を含んでいて、棒切れをシャベルがわりにすると。かんとんに掘れた。

「あった！ きつとこれだ」

しいちゃんは十分もしないうちに、石を見つけた。その時の喜び方は、半端なものではなかった。森の中で意味なく飛び跳ねながら、大きな声で何度もバンザイを叫んだ。

今、その姿を思い返すと、私は少しばかり辛い気分にもなる。いつも呑気そうで、悩みなどとは無縁そうに見えた彼だったが、その実、白バイ警官になれそうにないということに、ひどく胸を痛めていたのだ。

「うっちゃんも、早く見つけろよ」

興奮した口調でしいちゃんは言った。けれど、私はなかなか見つけることができなかった。あちこち掘り返してみても、出てくるのは木の根の欠片や、ゴツゴツした茶色の石ばかりだ。

「石って、どんなのなんだよ。しいちゃん、ちょっと見せて」

「ダメだよ。人に見せちゃいけないって、あのおじいさんが言ってた。えーと、新品の消しゴムくらいの大きさで、ツルツルしてて、ハッカ飴みたいな感じだよ」

しいちゃんが石の様子を説明してくれたが、結局、私には見つけること

ができなかった。きっと私が切実な願いを何も持っていないことを、神様はお見通しだったのだろう。

私は自分の石探しを、早々に放棄してしまった。しーちゃんは、もっとよく探すように言っただけで、それほど熱意はわかかなかった。祠の場所はわかったのだから、本当に望むものができた時に、また来ればいい。

(『いっぺんさん』朱川湊人)

一、 1～10のひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直

しなさい。(送りがなも書くこと)

- | | | | |
|---|------|----|------|
| 1 | ひえる | 6 | ならぶ |
| 2 | たしか | 7 | ぜったい |
| 3 | たのむ | 8 | 改めて |
| 4 | せつする | 9 | かんたん |
| 5 | よくじつ | 10 | 口調 |

二、 ア・イ・ウの意味を書きなさい。

- ア いっそう
イ 遠目
ウ 道すがら

三、 a・bのことばを使って短文を書きなさい。

- a いかにも
b あくまでも

四、次の問いに答えなさい。

問1 ——— ①「ひどく心細い気持ちになった」とありますが、そのような気持ちになったのはなぜですか。説明しなさい。

問2 ——— ②「私たちは顔を見合わせてうなずくと」とありますが、この表現から二人が何を考えたことがわかりますか。説明しなさい。

問3 ——— ③「残念だったなあ」とありますが、どのようなことが「残念」だったのですか。説明しなさい。

問4

——— ④「口を挟んだ」と同じように、体の部分を使った次の慣用句の空欄に入ることばと意味を、後の語群からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

- 1 舌を
- 2 目を
- 3 腕を
- 4 足を

語群①【ことば】

- ア みがく
- イ まく
- ウ ぬすむ
- エ とじる
- オ ひっばる

語群②【意味】

- ア 技術が上達するように訓練する。
- イ 人に見つからないようにする。
- ウ 非常に優れていておどろく。
- エ 人の仕事のじゃまをする。
- オ 相手の弱みにつけこむ。

問5 ——— ⑤「心中怖いものを感じながら、老人の後を自転車を押してついでいった」とありますが、それはなぜですか。説明しなさい。

問8 ——— ⑦「その人たちの前でそうする以外にはなかったのだ」について。

問6 ——— ⑥「少し興ざめな気分になった」のはなぜですか。説明しなさい。

1 「その人たち」とは、具体的に誰のことですか。答えなさい。
2 なぜ「そうする以外にはなかった」のですか。次の中から最も適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

問7 空欄

A

D

 に当てはまる語句を、次の中からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア 私が、九時よりも前に帰ってくるという約束を守らずに、遅くまで帰ってこなかったから。
イ 他人を巻き込んだ責任として、人々の前でしからなければいけないと、親が考えたから。
ウ 何をしていたのかいくら聞いても、私としーちゃんが本当のことをまったく話さなかったから。
エ 川でおぼれてしまったのではないかと心配しすぎて、親が感情的になってしまったから。

- ア さっそく
- イ とても
- ウ まるで
- エ ようやく

問9 ——— ⑧「自分たちの力で、思いがけないことをやってのけた」とありますが、「思いがけないこと」とはどのようなことですか。説明しなさい。

問10

——⑨「私はなかなか見つけることができなかった」とありますが、「見つけることができなかった」のは、なぜだと「私」は考えていますか。その内容が書かれた一文を抜き出し、最初の五文字を答えなさい。

問12

次の文はこの作品中で起こった出来事です。これらを、起こった順番にならべかえなさい。

問11

登場人物「私」と「しーちゃん」について、正しいものには○を、正しくないものには×を答えなさい。

- ア 老人に出会った。
- イ しーちゃんがお願いを始めた。
- ウ ぼくとしーちゃんが親に殴られた。
- エ 校長先生にお目玉をくらった。
- オ 祠で白い石を発見した。

1 「私」は、仲のよかった「しーちゃん」との思い出を振り返って、この物語を語っている。

2 「しーちゃん」は、知らないことにはなかなか積極的になることができない、心配性な面がある。

3 「しーちゃん」は、「私」より願いをかなえたいという思いが、つよく、一生懸命になっている。

4 「私」と「しーちゃん」は、二人とも親の言いつけをまもったことがないわんぱく少年である。

問3	問2	問1	四	b	a	三	ウ	ア	二	6	1	一
				あくまでも	いかにも		道すがら	いつそう		ならぶ	ひえる	
										7	2	
										8	3	
								イ	改めて	たしか		
									9	4		
									10	5		
										口調	よくじつ	

問 12	問 11	問 10	問 9	問 8	問 7	問 6	問 5	問 4	
↓ ↓ ↓ ↓	1			1	A			3	1
								語群①	語群①
	2				B			語群②	語群②
	3				C			4	2
	4			2	D			語群①	語群①
								語群②	語群②

1	ひえる 冷える	2	たしか 確か	3	たのむ 頼む	4	せつする 接する	5	よくじつ 翌日
6	ならぶ 並ぶ	7	ぜつたい 絶対	8	改めて あらためて	9	かんたん 簡単	10	口調 くちよう

ア	いつそう ひときわ・ますます・程度が 一段と進む様・この上・もつと	イ	遠目 遠くから見た様子
ウ	道すがら 道をいきながら 道の途中で		

三	a	いかにも (例)中学生の集団は、いかにも楽しそうに話をしながら私の前を通り過ぎた。
	b	あくまでも (例)私は、あくまでも自分の意見を貫く姿勢で話し合いに臨んだ。

四	問1	知らない場所で、周りに歩いている人がおらず、さびしい風景の中、これからどうすればいいのかわからないから。
	問2	歩いている老人に、いつペンさんのことを聞くことができそうなので、(このチャンスを利用してはならないと考えたこと。)
	問3	遠いところから来たのに、いつペンさんにはもう力も無く、願いが叶わないこと。

問 12	問 11	問 10	問 9	問 8	問 7	問 6	問 5	問 4	
ア ↓ オ ↓ ウ ↓ イ ↓ エ	1 ○	き つ と 私 が	親に秘密で、子どもだけで遠くに行き、いつぺんさんに願い事をかなえてもらうためにお参りをしたこと。	1 担任の先生 警官 近所の人	A イ	かんとんに願いが叶うと思っていたのに、思いのほか手間がかかることにながっかりしたから。	奇妙な格好をして、常に笑っている老人を不気味なものに感じながらも、どうしても願い事を叶えたいと考えていたから。	3	1
	2 ×				B エ			語群① ア	語群① イ
	3 ○				C ウ			語群② ア	語群② ウ
	4 ×				D ア			語群① オ	語群① ウ
								語群② エ	語群② イ